

映像は JFA HP 審判  
競技規則 をご参照ください。

## 2017/2018競技規則改正（通達概要）

HKFA審判委員会

2017年7月1日

**JFA**



## 改正のポイント

- 翻訳をしやすくするという観点に基づいた改正
- 今年の変更が競技規則の主だった改正の最終段階
- 競技規則の明確化による、あらゆるレベルの試合、あらゆる国のサッカー協会におけるサッカーやレフェリングへの利益

# 各国サッカー協会による競技規則の改正

## 各国サッカー協会の自由度拡大

- 下のレベルの国内サッカーに合わせて競技規則を修正
- 自国のサッカー発展への利益

## 全部または一部の修正が可能(FA責任のもと)

*ユース、年長者、障がい者およびグラスルーツのサッカー*

- 競技のフィールドの大きさ
- ボールの大きさ、重さ、材質
- ゴールポストの間隔とクロスバーのグラウンドからの高さ
- 試合時間
- 再交代の使用
- 一時的退場(シンビン)の使用

昨年まで、

ユースは、16歳未満  
年長者は、35歳以上

でした

## 今後2年間に注力する事項

1. 競技者の行為
  - キャプテンの役割の強化
  - 審判員に「群がる、または取り囲む」行為
2. “時間稼ぎ”への対策
  - 特に「実質的なプレー時間」の確保
3. より公平なPK方式のやり方
  - 1本目、2本目...で、先にけるチームが同じにならない
4. ボールを手または腕で扱う反則 - わかり易い解釈

こんなことが  
検討されて  
いるというこ  
とです

# 主な改正点

## 第1条：競技のフィールド

- 危険でなければ、天然のフィールドにおけるマーキングに人工の表面素材を使用できる。エリアの境界線を示すラインはそのエリアの一部である。



## 第3条：競技者

大会規定との関連

- 交代の数は、公式競技会のいかなる試合でも最大で5人までとし、その数はFIFA、大陸連盟、または、各国サッカー協会が決定する。
- ただし、トップディビジョンにおけるクラブのトップチーム、あるいは各国の「A」代表チームが出場する男子および女子の競技会では、交代は最大で3人までとする。
- 延長戦での4人目の交代可(2016年から2年間の実験)
  - ✓ 競技会規定に基づく
- ユース、年長者、障がい者、そしてグラスルーツのサッカーにおいて、再交代を認めることができる

昨年まではグラスルーツのみに認められていた

## 第4条：競技者の用具

- テクニカルスタッフ(TS)によるあらゆる形式の電子通信システムは、競技者の保護や安全に直接関係する場合を除いて認められない
  - TSは競技者の「保護や安全」に直接かかわる場合のみ使用可
  - TA内でどのような電子機器や通信機器の使用を認めるかは、通信によって不当な行為が生まれるのを防ぐことを重視しつつ継続協議
- 電子的パフォーマンス・トラッキングシステム(EPTS)における機器については、IFABが承認したものののみ使用可能（“IMS”のロゴ）
  - 2018年5月31日で移行期間を終了



# 主な改正点

## 第5条：主審

- 主審の決定は...試合結果を含めて最終である。主審およびその他すべての審判員による決定は、常にリスペクトされなければならない
  - **退席処分となる反則を犯したチームのメディカルスタッフ**が、そのチームで他に対応できるメディカルスタッフがない場合、その試合に**とどまって負傷した競技者を治療できる**
- ユース、年長者、障がい者、そしてグラスルーツのサッカーにおける一部／すべての警告(YC)に対して、一時的な退場(シンビン)の使用を認めることができる

JFAで検討中

## 主な改正点

### 第7条: ハーフタイムのインターバル

- 競技者には、ハーフタイムのインターバルを取る権利があり、それは15分間を超えないものとする。延長戦のハーフタイムのインターバルでは、水分補給の時間を取ることが認められる。競技会規定には、ハーフタイムのインターバル時間を規定し、それは主審の承認があった場合にのみ変更できる。

この時間内で監督が指示することを目的としているものではない

### 第8条: プレーの開始および再開

- キックオフを行う競技者を除いて、すべての競技者は自分たちのハーフ内にいなければならない。
- キックオフから相手競技者のゴールに直接入れて得点することができる。ボールがキッカーのゴールに直接入った場合、相手競技者にコーナーキックが与えられる。



## 主な改正点

### 第10条：試合結果の決定

- 主審がキックを行うよう合図した後に犯した反則でキッカーが罰せられる場合、そのキックは失敗として記録され、キッカーは警告される。
- ゴールキーパーとキッカーの両方が同時に反則を犯した場合：
  - ・ キックが失敗した、あるいは、セーブされた場合、そのキックはやり直しとなり、両方の競技者は、警告される。
  - ・ ボールがゴールに入った場合、得点は認められず、そのキックは失敗として記録され、キッカーは、警告される。

GKが警告を与えられるケースは、キックされたボールの結果によるので、ボールがキックされることが条件の一つである

## 主な改正点

### 第11条:オフサイド

- ボールが**審判員**からはね返った、あるいは、審判員に当たって方向が変わった場合、オフサイドポジションにいた競技者を罰することができる
- 「セーブ」の定義に「試みる」を追加する  
:あるいは、止めようとするものである



### 第11条:オフサイド

• 次の状況では:

・ オフサイドポジションから移動した、あるいは、オフサイドポジションに立っていた競技者が相手競技者の進路上において相手競技者がボールに向かう動きを妨げた場合、それにより相手競技者がボールをプレーできるか、あるいは、チャレンジできるかどうかに影響を与えていれば、オフサイドの反則となる。その競技者が相手競技者の進路上において(相手競技者をブロックするなど)相手競技者の進行を妨げていた場合、その反則は第12条に基づいて罰せられなければならない。

### 第11条:オフサイド

- 次の状況では:

- オフサイドポジションにいる競技者がボールをプレーする意図をもってボールの方へ動いたが、ボールをプレーする、または、プレーしようとする、あるいは、ボールへ向かう相手競技者にチャレンジする前にファウルされた場合、オフサイドの反則より前に起こったファウルが罰せられる。

## 主な改正点

### 第11条:オフサイド

- 次の状況では:

- 
- 

- 既に、ボールをプレーした、または、プレーしようとした、あるいは、ボールへ向かう相手競技者にチャレンジしようとしたオフサイドポジションにいる競技者に対して反則があった場合、ファウルより前に起こったオフサイドの反則が罰せられる。

# 主な改正点

## 第11条:オフサイド

p194



オフサイドポジションにいた攻撃側競技者 (A) は、オンサイドポジションにいるその他の味方競技者がボールをプレーする可能性がないと主審が判断した場合、ボールにプレーする、あるいは触れる前に罰せられることがある。

## 第12条:ファウルと不正行為

### 2. 間接フリーキック

競技者が次のことを行った場合、間接フリーキックが与えられる:

- ・ 攻撃的な、侮辱的な、または、下品な発言や身振り、あるいは、その他の言葉による反則で異議を示した場合

警告または退場があったときでも、言葉や身振りによる反則は間接フリーキックで罰せられることを明確にした。ちなみに、直接フリーキックが適用されるのは、身体的接触が伴う反則に対してのみである。

## 第12条:ファウルと不正行為

### 3. 懲戒処置 =アドバンテージ=

明らかな得点の機会を除き、著しく不正なプレー、乱暴な行為または2つ目の警告となる反則を含む状況で、アドバンテージを適用すべきでない。(....)、その競技者がボールをプレーする、あるいは、相手競技者に挑む、または、妨害する場合、主審はプレーを停止し、その競技者を退場させ、間接フリーキックでプレーを再開する。ただし、その競技者がより重い反則を犯した場合を除く。

退場となる反則を犯した競技者は、アドバンテージが適用された後、相手競技者に挑むなどした場合、間接FKで罰せられる。ただし、挑んだ結果、相手競技者を不用意にトリップするなどのファウルを犯したならば、より重い反則となる直接FKで罰せられることを明確にした。

## 第12条：ファウルと不正行為

### 4. ファウルや不正行為の後のプレーの再開

フィールド内または外に立っている競技者が、相手競技者、交代要員、交代して退いた競技者、退場となった競技者、チーム役員、審判員あるいは、ボールに対して物（ボールを含む）を投げた場合、その人またはボールに物が当たった、または、当たったであろう位置から行われる直接フリーキックでプレーは再開される。この位置がフィールド外の場合、フリーキックは境界線上の最も近い地点で行われる。このフリーキックが反則を犯した競技者のペナルティーエリア内（の境界線上）で行われるものであれば、ペナルティーキックが与えられる。

## 第12条:ファウルと不正行為

### 4. ファウルや不正行為の後のプレーの再開

交代要員、交代して退いたまたは退場となった競技者、一時的にフィールド外にいた競技者またはチーム役員が、フィールド内に物を投げつけ、あるいは、けり込んで、それがプレー、相手競技者または審判員を妨害した場合、物がプレーを妨害した、あるいは、相手競技者、審判員またはボールに当たった、または、それらに当たったであろう場所から行われる直接フリーキック(またはペナルティーキック)でプレーは再開される。

## 第12条：ファウルと不正行為

### 3. 懲戒処置 =得点の喜び=

次の場合、競技者は警告されなければならない：

- ・ 安全や警備に問題が生じるような方法でピッチ外周フェンスによじ登ったり、観客に近づく。
- ・ 挑発したり、嘲笑したり、相手の感情を刺激するような身振りや行動をする。
- ・ マスクや同様のものを顔や頭に被る。
- ・ シャツを脱ぐ、シャツを頭に被る。

# 主な改正点

## 第12条：ファウルと不正行為

### 【大きなチャンスとなる攻撃の阻止】

- ペナルティーエリア内で大きなチャンスとなる攻撃を妨害・阻止した場合は警告される
  - ✓ただし、競技者がボールをプレーしようとして反則を犯した場合を除く
    - PKのみ(警告なし)
  - ✓決定的な得点機会の阻止(PA内)の「退場⇒警告」となる考え方と同じ



DOGSO⇒PK+YC となった

この考え方との整合性をとるために、ボールをプレーしようとして反則を犯して、大きなチャンスとなる攻撃を阻止した結果、PKが与えられた場合、YCとならないようにした。

## 第12条:ファウルと不正行為

### 【決定的な得点の機会の阻止におけるプレーの方向】

- 決定的な得点の機会の阻止を判断する考慮点
  - 反則とゴールの距離
  - ボールをキープできる可能性
  - 守備側競技者の位置と数
  - プレーの方向性
- 競技者が決定的な得点の機会の状況において、最終局面で相手(GK含)を抜き去るために斜めに動いて反則を受けた場合
  - ✓ 全体的に相手のゴールに向かって動いているのであれば、決定的な得点の機会として判断される



## 第13条:フリーキック

### 3. 反則と罰則

- 守備側チームがそのチームのペナルティーエリア内でフリーキックを行うとき、ペナルティーエリアから出る時間がなく相手競技者がそのペナルティーエリアに残っていた場合、主審はプレーを続けさせなければならない。フリーキックを行うときにペナルティーエリア内にいる、または、ボールがインプレーになる前にペナルティーエリアに入った相手競技者が、ボールが他の競技者に触れられる前にボールに触れる、または、挑む場合、フリーキックをやり直す。

## 主な改正点

### 第14条：ペナルティーキック

- PK時にゴールキーパーとキッカーが同時に反則を犯した場合
  - ✓ ボールがゴールに入らなかった場合、PKをやり直し、両方に警告
  - ✓ ボールがゴールに入った場合、得点を認めず、キッカーのみが警告され、そのキックは失敗として記録される  
(ペナルティーマークから守備側の間接FKで再開)

## その他、知っておいて欲しい点

### 競技規則の改正・・・**競技規則の適用例がある**

P53 第3条 9 得点があったときフィールド上に部外者がいた場合

得点后、プレーが再開される前に、主審が、得点があったときにフィールド上に部外者がいたことに気がついた場合：。主審は、部外者が次の場合、得点を認めてはならない：

・・・得点したチームの競技者、交代要員、交代して退いた競技者、退場となった競技者またはチーム役員であったとき。この場合、**部外者がいた位置から直接フリーキックでプレーを再開する。**

## その他、知っておいて欲しい点

### 競技規則概要の改正・・・競技規則の適用例がある

P133 第12条

例 アップしている交代要員に反則を犯しに行く

- ・ ボールがインプレー中、競技者が、相手競技者、交代要員、チーム役員（または審判員に対して）に関わり、フィールド外で反則を犯したり、犯された場合、境界線上からのフリーキックで罰せられる。
- ・ プレーあるいは人を妨害するためにフィールド内にボールまたは物を投げ入れる、あるいは、けりこんだ場合、直接フリーキックで罰する。
- ・ フィールド外の人に対してボールや物を投げた、あるいは、けた場合、境界線上からの直接フリーキックで罰せられる。

境界線上から直接FK⇒ PA内であればPK

## その他、知っておいて欲しい点

# ボディー・ランゲージ、コミュニケーション、笛

P188 コーナーキック／ゴールキック

### コーナーキック／ゴールキック

ボールが完全にゴールラインを越えたとき、(良い視野を得るため) 副審は右手で旗を上げ、主審にボールがアウトオブプレーであることを伝える。それが：

- 副審から近い場合 - ゴールキックかコーナーキックかを示す。
- 副審から遠い場合 - 主審を目で確認して主審の判定にあわせる。

ボールがゴールラインを明らかに越えたとき、副審は旗を上げてボールがフィールドから出たことを示す必要はない。ゴールキックかコーナーキックかの判定がはっきりしている場合、特に主審がシグナルをしているときは、副審がシグナルをする必要はない。

\* はっきりしている場合はシグナルする必要はないとしていますが、走らなくて良いわけではありません。!!競技者の動きやプレーの状況に応じてゴールラインまで走るという動きは、副審の基本の動きとして身に着けるようお願いします。その上で、「明らかな・・・」「はっきりしている・・・」場合のシグナル(たとえば、シュートされたボールが大きくゴールを外れ、明らかにゴールラインを越えた場合など)の仕方ととらえてください。あわせて、gk・ckの時の監視があるので、ckフラッグ方向への移動は当然伴うということです。

## 適用開始日

北海道主催各種大会 2017年8月1日(火)

※ 国際競技会 2017年6月1日から有効

### 国内各リーグ

- Jリーグ J1:7/29(19節)、J2:7/29(25節)、J3:8/19(19節)  
ルヴァンカップ:8/30(準々決勝第1戦)
- JFL 7/8(セカンドステージ1節)
- なでしこリーグ 1部:8/19(11節) 2部:8/19(11節)  
チャレンジ:9/2(プレーオフ1節)

### JFA主催各種大会

原則 7月21日(金)

# 競技規則の精神

“美しい競技”の美しさにとってのきわめて重要な基盤

付録

考えてみてください

安全 P46

公平 P47

喜び P36

P.63 2. 主審の決定決定は、主審が競技規則および「サッカー競技の精神」に従ってその能力の最大を尽くして下し、適切な措置をとるために競技規則の枠組の範囲で与えられた裁量権を有する主審の見解に基づくものである。

と、記載されているが、具体的に競技規則のどの部分を指すものなのかを抜き出し、その精神を述べてください。